

平成 20 年度漂流・漂着ゴミに係る国内削減方策モデル調査  
第 4 回地域検討会（石川県） 議事概要

日時：平成 20 年 6 月 3 日（火）

10:00～12:00

場所：石川県地場産業振興センター 第 6 研修室

議 事

開会（10:00）

- 1．開会の辞
- 2．資料の確認
- 3．検討員の紹介
- 4．議事

第 3 回地域検討会議事概要及び指摘事項について〔資料 1、資料 2〕

平成 20 年度実施計画（案）について〔資料 3〕

クリーンアップ調査及びフォローアップ調査結果概要について〔資料 4〕

その他調査の進捗状況について〔資料 5〕

地域における今後の漂流・漂着ゴミ対策のあり方について〔資料 6〕

質疑・意見交換

- 5．その他連絡事項

閉会（12:00）

配布資料

資料 1 第 3 回地域検討会（石川県）議事概要（案）

資料 2 第 3 回地域検討会（石川県）での指摘事項に対する対応(案)

資料 3 平成 20 年度実施計画（案）

資料 4 クリーンアップ調査及びフォローアップ調査結果概要

資料 5 その他の調査の進捗状況

資料 6 地域における今後の漂流・漂着ゴミ対策のあり方について

(別紙 1) 漂流・漂着ゴミ対策に関する関係省庁会議とりまとめ（概要）

(別紙 2) 石川県における漂流・漂着ゴミ対策に関する取組の現状

参考資料 1 総括検討会議事概要(第 3 回)

参考資料 2 アダプト・プログラム（社団法人食品容器環境美化協会）

平成 20 年度漂流・漂着ゴミに係る国内削減方策モデル調査地域検討会（石川県）  
第 4 回地域検討会（石川県） 出席者名簿

（敬称略）

検討員（五十音順、敬称略）	
池田 幸 應	金沢星稜大学人間科学部 教授
泉 敏 克	羽咋都市広域圏事務組合 環境保全課 課長
浦上 豊 成	クリーンビーチいしかわ事務局 事務局長
川井 康 子	羽咋生活学校 元代表
坂本 幸 彦	石川県農林水産部 次長兼水産課長
（代理 栗森 勢樹）	水産課 課参事
中川 達 雄	石川県土木部羽咋土木事務所 所長
（代理 出村 勇吉）	羽咋土木事務所 地域調整担当次長
中道 康 男	海上保安庁第九管区海上保安本部金沢海上保安部 警備救難課 課長
西川 孝 蔵	石川県環境部廃棄物対策課 課長
宮丸 克 巳	国土交通省北陸地方整備局金沢港湾・空港整備事務所 工務課 課長
山本 張 喜	羽咋市環境安全課 課長
横田 國 明	羽咋市建設課 課長
オブザーバー（所属機関名）	
環境省	
相山 晋 太郎	環境省 地球環境局 環境保全対策課
大庭 巖 敦	環境省 中部地方環境事務所 廃棄物・リサイクル対策課 調査官
事務局：日本エヌ・ユー・エス(株)	
内藤 治 男	環境設計ユニット
高橋 理	地球環境ユニット

### 議題1 第3回地域検討会議事概要及び指摘事項について(資料1、資料2)

- 1) 滝海岸には、まだ材木が一部そのままになっているところがあるが、それはどんなふうになるのか。独自調査の対象になっており、1回クリーンアップしたので、この以上の計画はない。

### 議題2 平成20年度実施計画(案)について(資料3)

質問・コメント等はなし。

### 議題3 クリーンアップ調査及びフォローアップ調査結果概要について(資料4)

- 1) 第4回調査の実施前に、クリーン・ビーチいしかわとの事前の打合せはあったか。羽咋市環境安全課と連絡して、本業務での範囲は砂浜の部分で、クリーン・ビーチいしかわはその上部を実施するという作業分担で、事前の打合せをした。
- 2) 丸太に関しては、独立行政法人国立能登青少年交流の家で、年間数千名の使用があり、連携も今後より一層必要かなと思う。今回はいすになるものだけを引取ったが、さらに、取材して、どういう方法がいいかを検討する。
- 3) リヤカーの効率が非常にいい。今後、今年に関しても台数を増やしていく検討が必要かなと思った。
- 4) ペットボトル、ライターに関しては、石川県の場合はサンプル数が非常に少ないという現状があるので、サンプル数によってかなり違ってくる可能性もあるかなと思っている。
- 5) クリーン・ビーチは砂浜だけをやるということでもないので、場所によっては、草むらの中やテトラポットの間もあり、今後、本調査と事前にうまく話し合いをして、役割分担をしながらやることで調査が明確になるだろう。
- 6) 今、石川県に来ているサーファーは、石川県民だけではなく、隣の富山県からもかなり多く来ている。中心的には10代、20代が多く、非常に意識が高く、羽咋市の漁協や婦人会とサーファーがみずから連携をとりながら、定期的に継続的に清掃活動を行っているという実態がある。第5回調査で連携していければ、輪も広がるし、環境行政の面からもいいと思う。

### 議題4 その他調査の進捗状況について(資料5)

質問・コメント等はなし。

### 議題5 地域における今後の漂流・漂着ゴミ対策のあり方について(別紙1、別紙2、資料6)

- 1) 石川県は非常に県民の意識も高く、行政の方々の取り組みも盛んである。ただ、クリーン・ビーチいしかわは、県民のボランティア活動で推進しているので、費用がかかる。国としても、ぜひ今後より一層県と連携をとりながら、例えば予算措置等も講じていただきたいと思う。
- 2) 運搬処理費は市町村が負担しており、また、処分費用が問題になっている。運搬問題や処分問題に関して苦慮しているのが現状である。
- 3) 今後の体制づくりの中で、1つの大きなキーワードは、1つは県民全体に情報発信をしながら連携していくということと、もう1つは運搬処理の問題である。処理問題の予算の関係上や、補助金制度はあるもののなかなか申請できないことで、次の段階に来ていると思う。

### 議題6 質疑・意見交換

- 1) 5月に金沢と白山市を中心に海岸清掃したが、今年の特徴は投棄ゴミが目立った。マナーが悪く、海岸などに捨てていくという残念なことがあった。全国的なケースと思うが、海岸での不法投棄、ちょっと入った林の中が非常に多い。石川県としてもクリーン・ビーチとしても、

そういう問題に関して環境教育を推進しているというのが現状である。

- 2) 処理の立場からは、浜ゴミは砂がかんでいる、塩分がかんでいることが、処理をする機器に対して悪影響を及ぼす要因が非常に多い。埋め立ては、各埋め立て処分場は残容量が逼迫している。人海戦力で分別しながら清掃するのが一番である。石川県の場合は、自然ゴミはそのまま触れずに、自然に帰すやり方を採用しているが、ある程度人の手が要ることになる。とにかく全部ゴミで回収すると、その費用に莫大なお金をかけているような気もする。